「ホームカミングデー2012」開催

校友、大学関係者ら３６７人が旧交温める

専修大学卒業生の集い「ホームカミングデー２０１２」が鳳祭期間中の11月３日、生田キャンパスで開かれ、校友、大学関係者ら３６７人が参加し、旧交を温めた。

９号館エントランスホールでのテープカットのあと、５階アトリウムで大学紹介（知の発信）、大学史特別展、スポーツパネル展や創立１３０周年記念映画『学校をつくろう』の上映、校友会支部の協力による岩手県大船渡市と宮城県石巻市の物産展などが行われ、多くの参会者でにぎわった。

また、本学ＯＢの弁護士、公認会計士・税理士による無料法律・税務相談と学生によるキャンパスツアーも行われた。

正午からＣＡＢＩＮで懇親会が開かれ、日高義博理事長・学長、甘竹秀雄校友会長のあいさつのあと渡邉信育友会長の発声で乾杯、懇談のあと校歌斉唱で散会した。

司会はフリーアナウンサーの日高治子さん（平11経営）が務めた。

専大校友を訪ねて

㈱川崎フロンターレ
サッカー事業部運営グループ
高尾（たかお）　真人（まさと）さん（平19経営）

—サッカーと経営学両立が自信に結実—

専大時代は経営学部に学び、サッカー部で活躍。「学生時代は、当たり前のこと」と思っていた勉学とスポーツの両立が、サッカーＪリーグ・川崎フロンターレのスタッフとして仕事を進める上で自信につながっている。

サッカー部の練習は午前６時からと早朝のため、４時前起床、千葉県船橋市の自宅を出てＪＲ船橋駅から始発電車に乗り生田キャンパスの北グラウンドに駆け込んだ。

練習のあとの授業では睡魔に襲われた。しかし、「授業は絶対にサボらないと、心に決めていました」。

ポジションはＭＦ。攻撃的で魅力的なサッカーを唱える源平貴久監督、岩渕弘幹コーチに鍛えられた。メンバーは関東リーグ１部で奮闘。昨シーズン、後輩たちが関東リーグで優勝、さらには〝全国制覇〟を成し遂げた礎を築いた。

川崎フロンターレが主催するサッカースクールで子どもたちに教えたこともある。後に就職する同クラブとは、学生時代から縁があった。

管理会計が専門の櫻井通晴教授（現・名誉教授）指導のゼミに入った。ＣＳＲ（企業の社会的責任）を研究し、会計にＣＳＲがどう結びつくかを探った。「体育会に入っているから」を言い訳にせず、ゼミ活動には積極的だった。大学対抗の論文大会に出場、ゼミ長も務めた。

会計学への興味はふくらみ、専大卒業後は一念発起してカナダに留学、バンクーバーの大学でＭＢＡ（経営学修士号）を取得した。

「がむしゃらに取り組みました」

なかなか上達しなかった英語の力は、町の「草サッカーチーム」に入ってからグングン伸びた。仲間とプレーすれば会話が増える。サッカーが役立った。

「君ならできると、最初から分かっていたよ」。海外でＭＢＡを取ったことを恩師・櫻井教授に報告したところ、あっさりとそう返された。

「大学時代は、自分の心構え次第で何にでも挑戦できる。ためらわずいろいろなものを吸収して」。それが、確固たる土台になる。後輩へメッセージを贈った。

叙勲受章者

11月３日付で秋の叙勲受章者が発表された。専修大学関係者の受章者は次の通り。

◇旭日双光章
船木　茂氏（ふなき・しげる＝昭36商経商）

◇瑞宝小綬章
稲葉　昇氏（いなば・のぼる＝昭42法）

◇瑞宝双光章
井上　文夫氏（いのうえ・ふみお＝昭45経営）

第28回グリーンカップゴルフ大会

80人が熱戦

第２８回専修大学校友会グリーンカップゴルフ大会
平成２４年１０月５日（金）　姉ヶ崎カントリー倶楽部

校友会グリーンカップゴルフ大会が10月５日、千葉県・姉ヶ崎カントリー倶楽部で開催され、80人が熱戦を繰り広げた＝写真。

開会式で伊藤良雄大会実行委員長（校友会副会長）のあいさつ、蒲田重勝競技委員長（同体育振興部長）の競技説明があり、競技がスタート。

個人優勝は愛澤壽彦氏（昭46法）、ベストグロス賞は木村均氏（昭47商）、シニア優勝は斉藤弘氏（昭44商）、団体優勝は少林寺拳法部が獲得した。

なお、懇親会で集まったチャリティー金10万円が被災学生への支援金として専修大学へ寄付された。

校友会からのお知らせ

〈奈良県支部総会〉
▽11月23日（金）11時45分開会▽近鉄新大宮駅から車で３分「奈良ロイヤルホテル」問大限利明氏☎０９０（７１１４）４８７２

〈神奈川連合総会〉
▽12月１日（土）14時開会▽「三浦海岸・マホロバマインズ三浦」問新倉守氏☎０４６８（88）４５５６

〈沖縄県支部総会〉
▽12月６日（木）18時30分開会▽ゆいレール旭橋駅から徒歩７分「うらしま」問森敬氏☎０９８（８７８）３３８８㈱りゅうせき建設内

〈我孫子・印西、柏、流山、野田鳳会四支部合同忘年会〉
▽12月８日（土）17時30分開会▽ＪＲ柏駅すぐプラザホテルＢ１「麗宮飯店」問三門輝氏☎０４７６（42）７０４５

〈新宿支部総会〉
▽12月12日（水）18時開会▽地下鉄丸ノ内線ほか・新宿三丁目・Ｂ２出口すぐ「新宿　栄寿司本店」問今福義幸氏☎03（３２６９）１４３５

緑鳳学会第21回大会開く

▲　パネルディスカッションの様子

専修大学緑鳳学会（小杉伸次会長）の第21回大会が10月27日、神田キャンパスで開かれた。

研究発表は以下の通り。

▽奥田真結子さん（文学研究科博士後期課程）「ブリューゲルのイデオロギーにおける一考察～宗教思想と民衆文化～」▽高嶋陽子さん（法学研究科博士後期課程）「国連安全保障理事会と文民の保護―リビアの事例を中心に―」▽土佐巌人さん（文学研究科博士後期課程）「ラカン思想の実存的境位」▽甘超宏さん（商学研究科博士後期課程）「組織間コスト・マネジメントの狙い」

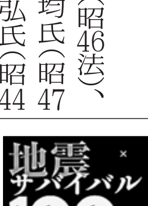
報告会・パネルディスカッションでは「東日本大震災・福島原発事故の現実と人間・社会・地球」を統一テーマに石原慎士石巻専修大学経営学部准教授、李東勲同大学経営学部准教授、西尾篤人拓殖大学経営学科長、宮岡孝之緑鳳学会代表幹事（本学法科大学院教授・弁護士）、田中正敬本学文学部教授、伊吹克己本学文学部教授の６氏が報告のあとパネルディスカッションで意見交換を行った。続いて総会・懇親会が開かれ、小杉会長と日高義博学長・理事長があいさつを述べた。

専修人の新しい本 ＜校友＞

災害に直面したらどうする？

『地震サバイバル１００の鉄則』

深澤廣和さんが協力



本書は大地震など災害に直面した場合にどう行動したらいいかを、分かりやすく解説している。

「首都直下地震で『火災旋風』に襲われたら」「高層ビルで『長周期地振動』に襲われたら」「地震でエレベーターに閉じ込められたら」「車ごと津波に飲まれたら」「富士山が噴火したら」など、具体的な状況を挙げながらアドバイス。日ごろの備え、ほんの小さな知恵や発想の転換が生死を分けると教えてくれる。

地震、防災の取材を多くこなしている久保範明さんが、防災アドバイザーとして活躍する深澤廣和さん（昭54商）の協力を得て完成させた。

（角川書店・本体９５２円＋税）

「キャンパス・ハラスメント対策室」のご利用を

Stop Campus Harassment
ハラスメントのないキャンパスへ

本学において２０１１年４月１日からキャンパス・ハラスメント対策室が設置されたことに伴い、セクシュアル・ハラスメント防止委員会が廃止された。キャンパス・ハラスメントとは、相手方の人格の尊厳を傷つけるような言動によって相手方に不快感もしくは不利益を与え、または相手方を差別的に取り扱い、もしくは不利益な取り扱いをすることによって相手方の人権を侵害し、教育、労働および研究の環境を悪化させる行為のことである。

キャンパス・ハラスメントは、大学などの場において生じるさまざまな嫌がらせの総称であり、そこにはセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどが含まれる。

セクシュアル・ハラスメントの例として、性的な要求を受け入れることを採用や昇進、進級などの条件としたり、性的表現や行動をすることによって他者に不快感を与えるなどが挙げられる。それに対して、教育的な指導を理由なく拒否し、放置したり、正当な理由なく、休日、休暇中の研究室への来室を強要する等は、アカデミック・ハラスメントの具体例になり、飲み会等で参加者に飲酒を強要したり、業務の指導の範疇を超えて、相手の人格を傷つけ、人権を侵害するような言動をとるなどはパワー・ハラスメントの具体例になる。

キャンパス・ハラスメントの被害にあった場合には、一人で悩んだり、自分を責めてはいけない。勇気を出してキャンパス・ハラスメント対策室に相談にいらしてください。本学のキャンパス・ハラスメント対策室事務局は、生田キャンパス４号館１階４１１教室にある。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・李建平）